

～はじめに～

平成20年度 川崎市議会海外視察の北米班は、今期の海外視察について、団長会議等であらかじめ定められた実施要領と視察目的に従い、平成21年3月23日から30日までの8日間と設定し、北米西海岸であるカナダ国バンクーバー市とバーナビー市、アメリカ合衆国ロサンゼルス市、サンディエゴ市を視察する予定とした。

事前の勉強会は、計7回実施したが、特にロサンゼルス港の視察のため、その講師として同港日本事務所長の鍛本氏、姉妹港である東京港の管理者で東京都港湾局港湾経営部営業課長の蔵居氏、振興課長の大石氏、株式会社商船三井定航部の向井氏をお招きし、世界の貿易の窓口である同港を中心とする港運業界の事情と戦略、また、我が川崎港も参画した京浜港の位置づけやポートセールスのポイント等について集中講義を受けた。

さて、すべての視察団員が準備万端の体制を整え、いよいよ出発当日を迎えたところ、天気晴朗、やや強い春風の早朝、成田空港にて米  
国貨物機の着陸失敗、炎上との報道が飛び込んできた。

この影響で大型機の離発着で使用する滑走路が終日閉鎖されたため、視察団員は自宅待機となり、その間、航空会社、旅行会社から様々な情報が入り、その対応に深夜まで振り回されたものの、結局、翌日の午前中には滑走路が使用可能との情報が入り、行程上、次の点について一部変更の上、1日遅れでロサンゼルスへ向けて出発することができた。

まず、ロサンゼルス空港からバンクーバー空港までの乗り継ぎ便が満席のため、シアトル行きに変更の上、借り上げバスにて陸路により国境を越えてバンクーバーへ入ること。次に、翌日午前中、バンクーバー市内視察のあと、午後2時頃にロサンゼルスへ戻る予定を夜発の飛行機へ変更し、第1日に視察予定であったバーナビー市の次世代育成に関する非営利団体の視察を同日の午後へ入れることとした。

米国ロサンゼルス市、サンディエゴ市での視察は順調で、特にロサンゼルス市港湾局ノーマン有川氏、森本氏、株式会社商船三井の系列会社TorPacの貞松社長の皆さんには、米国で働く日本人として、グローバルな視点から懸命に経営努力をされている内容を伺い、団員一同、きわめて大きな成果が得られたと同時に、そのチャレンジ精神等にも深く感銘した次第である。

いずれにしても、困難な状況を乗り越え、所期の目的を果たすことができたのは、団員12人の一致協力したことによるものと、併せて、ご協力をいただいた関係者の方々の賜物であり、深く感謝する次第である。

川崎市議会海外視察団 団 長 原 修一  
副団長 潮田 智信